

## 伊都地区を多世代交流のモデルのまちへ

私は夢アイデアとして、九州大学伊都キャンパスのある伊都地区を、多世代交流のモデルのまちとして発展させることを考えました。

まず、対象地域を説明します。伊都地区は図1のように福岡県福岡市の西側に位置し、糸島市との境目の近くにあり、多くの川が流れており豊かな田園風景が広がっています。また、図2のように、JR筑肥線沿いに多くの建物や商業施設があり、まちとして発展しています。そこから5キロほど離れたところに九州大学伊都キャンパスがあり、私もキャンパスの近くに住んでいます。さらにキャンパスから2.5キロ離れたところに今津運動公園があり、学生がサークル活動などで利用するほか、休日には多くの家族連れでにぎわっています。しかし、私が実際伊都地区に住んでいて感じる課題もあります。それは、地区を構成するまち・大学・公園の3つの要素を繋ぐものがないため、世代間の交流がなく、どのような人が住んでいてどんな作物が作られているのかあまり分からない事です。様々な人と交流し、地域について知ることは日常生活を送るうえでとても大切なことだと考えます。このことから、多世代交流を進めるために2つの方法を考えました。

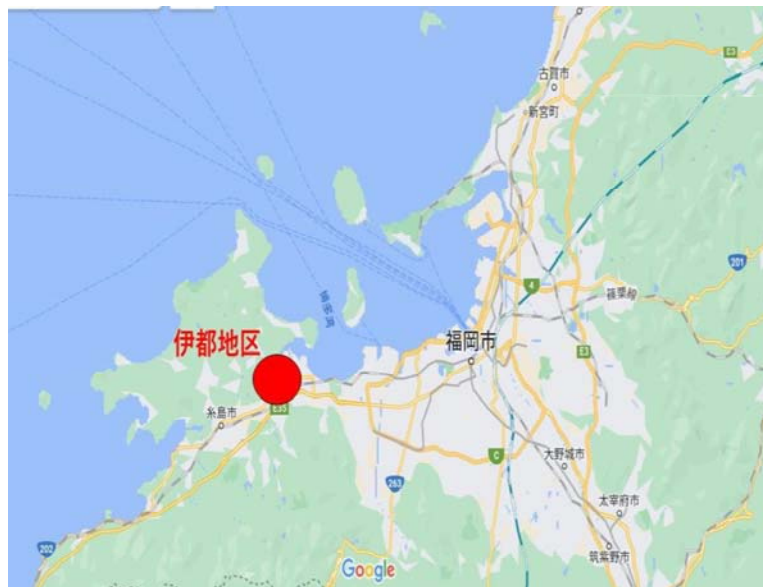


図1：福岡市近郊地図



図 2：伊都地区地図

1つ目の方法は、地区を構成する3つの要素が繋がる場所に、地区の中心となる施設を作ることです。具体的に、図3の赤く丸で囲った元岡周辺に施設を作ること想定して活用方法を考えました。1階には地元の食材を使ったレストラン、2階には学生が自習できるスペースや会社員などが自由に使える会議室を入れました。そして、伊都地区から福岡市方面を見た時に、福岡タワーなどの夜景がとてもきれいだと感じているので、屋上には夜景を見ながら楽しめるビアガーデンを入れ、この建物だけでも様々な世代の人が集まり、賑わいが生まれるようにしました。



図 3：元岡地区



図 4：中心施設イメージ

2つ目の方法は、伊都地区内の水路を親しみやすい場所にする事です。対象となる水路は、図5に示したように学園通線から今津運動公園へとつながる水路です。歩いたり自転車で公園を利用する人の多くはこの水路沿いを通るのですが、現状の水路(図6)は、草が伸び放題の上、護岸がコンクリートで固められておりガードレールもあるため、子どもが下まで降りることができず、水に触れることができません。私自身もよくこの水路沿いを利用しますが、緑が少なく通っていても楽しくなく、ただの目的地への手段になってしまっていると感じています。

そこで、水路を改修して住民が交流できる空間にすることを考えました。理想としたのは、福岡県福津市にある上西郷川(図7)です。この川も、かつては護岸がコンクリートで固められ川と地域の繋がりが希薄化していました<sup>(1)</sup>。しかし、行政だけでなく住民も参加してデザイン検討や河川計画などが行われ改修された結果、自然豊かで多くの人に利用される川に再生されました<sup>(1)</sup>。伊都地区の水路もこのように住民参加型で緑あふれる空間にすることで、家族連れが訪れて子どもが川遊びできるようになります。それだけでなく、公園で運動した学生が帰りに水路沿いに座って談笑したり、高齢者でも散策しやすい憩いの場にすることができます。また、水路で獲れる生き物と触れ合うイベントなどを開催することで、大人と子どもが気軽に接することができます。このように、水路を親しみやすい場所にする事で世代間の交流が生まれます。

以上のように、多世代が交流できる施設や空間を創ることで、小さい子どもや大学入学で初めて伊都に住むようになった学生も地域について知ることができ、誰もが住みやすい地区になると考えます。



図5：対象水路の地図



図 6：現状の水路



図 7：上西郷川(福岡県福津市)<sup>(1)</sup>

(参照) (1) <http://design-prize.sakura.ne.jp/archives/result/568>

タイトル：「伊都地区を多世代交流のモデルのまちに」

アピールしたい点：私が普段住んでいる伊都地区について、もっと色々な人と交流できるようにしたいと日頃から思っていたことを、夢アイデアとしてまとめました。